

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
広島県・尾道市	34006	1	平成22年度～ 平成26年度	平成22年度～ 平成24年度
活性化計画の区域				
尾道市瀬戸田町 高根地区 557ha				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績B	達成率(%) B/A	備考
地域産物の販売量の増加	1037.5%	787.5%	75.9%	787.5%/1037.5%

苗木の定植後、ハウス内の加温により生育を早めることで平成26年7月下旬からの初収穫を計画していたが、ハウス栽培管理（水分・温度調整）に試行錯誤したこと、各ハウスごとに比較栽培したことなどにより、樹体の生育が遅れた。

このため、樹体の早期生育を優先し結実させなかったため、計画していた平成26年度での初収穫ができなくなり、当初計画の目標が達成できなかった。

平成27年度現在、樹体の生育も順調であり、開花状況も良く、7月下旬から9月上旬の収穫により、目標の達成が見込まれる予定である。

2 目標の達成のため実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
産地振興追加補完整備	区画整理1.7ha 低コスト耐候性ハウス 0.9ha		・尾道市 ・農事組合法人レモンの郷
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	共用開始日
・尾道市 ・農事組合法人 レモンの郷	平成22年度	平成24年度	平成25年3月
事業の効果			
○地区法人名：（農）レモンの郷 経営規模：145 a 栽培品目：レモン123 a（うち新規94 a） せとか 22 a ○農地集積による基盤整備、施設整備により、生産性の向上、農作業の省力化など地域の新たな農業経営モデルとなった。			

3 総合評価

(コメント)

平成21年4月に、農事組合法人レモンの郷が設立された。

園地集積による基盤整備，低コスト耐候性ハウス建設が地域農業の活力となり，法人内の新規農業後継者（2世帯）のUターンにも繋がった。

平成27年度からのレモンの端境期である7・8月には収穫が始まり，周年供給体制の確立により、付加価値の高いレモンとして生産・収益性の高い安定した所得の確保により、「家族経営から企業的農業経営への転換モデル」「担い手確保のモデル」「残すべき農地の継承モデル」として期待される。

4 第三者の意見

(コメント)

基盤整備を機に農事組合法人を設立し，レモンの周年供給体制の確立を目的に低コスト耐候性ハウスが建設され，園地集積により労働力の分散省力化が図られるなど，作業効率の向上がなされたことにより，高品質レモンの生産体制が整い，さらに生産量の増加も見込まれている。

今後も需要拡大が見込めることから，生産体制の強化，他産業との連携による付加価値の高い加工品の開発や，アンテナショップなど活用した消費宣伝活動によるブランド化を推進することで，さらなる販売量の増加が期待される。

「広島県土地改良事業団体連合会 事業計画評価委員会」